

氏名	楠 本 衣 代
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3804号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Can t(8;21) oligoblastic leukemia be called a myelodysplastic syndrome? (t(8;21)陽性の乏芽球性白血病は骨髄異形成症候群とよべるか)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 白鳥 康史 教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

造血器腫瘍の新 WHO 分類では、French-American-British (FAB)分類でいうところの t(8;21) 陽性の骨髄異形成症候群(myelodysplastic syndrome, MDS)は、t(8;21)陽性の急性骨髄性白血病(acute myeloid leukemia, AML)というカテゴリーに統合されたが、t(8;21) 陽性の乏芽球性白血病に関する臨床病理学的知見は限られている。われわれは FAB 分類で MDS と診断されたうち t(8;21) 陽性である 12 症例と t(8;21)陽性の AML 43 症例について検討した。その形態学的、免疫学的マーカーの特徴ならびに臨床像は類似し、このことは新 WHO 分類の理論を支持するものであるが、顆粒球系の分化に関しては違いがみられた。MDS の症例では AML に比し、後骨髄球以降に分化した顆粒球系細胞の比率が高く、またアウエル小体を有する成熟好中球や t(8;21)をもつ好中球が高率にみられた。今後さらに多くの症例で t(8;21)陽性白血病の血液学的特徴と顆粒球系の分化能力との関連について検討が期待される。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、t (8;21) 陽性の骨髄異形成症候群 (MDS)と急性骨髄性白血病 (AML) の形態学的特徴、免疫学的マーカー、臨床像を比較検討したものである。両者は顆粒球系の分化能力の違いを除いては、これらの点において類似しており、両者を t (8;21) 陽性の AML というカテゴリーに統合した新 WHO 分類の理論を支持する結果を得ており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。